

令和5年度 認定こども園 高松東幼稚園 自己点検・自己評価（公表シート）

実施期日〈令和6年3月25日〉

1. 本園の教育・保育目標

○**建学の精神** 「研究的幼稚園」「理想的幼稚園」「非営利的幼稚園」

○**教育・保育目標** 「じょうぶな身体を育てる・豊かな心を育てる・創造する力を育てる」

○**育てたい子ども像**

- ・少しのことで疲れず、友達といっしょにしんぼう強くよく考えて遊ぶ子
- ・きちんとすることとのびのびすることとの両立ができる子
- ・基本的な生活習慣、態度を身に付け、自分に対する自信をもつことができる子

○**保育者の基本的姿勢**

- ・一人ひとりの子どもが“大切にされている”と実感できるような子どもと保育者の信頼関係を構築すること
- ・時代の変化に対応する教育・保育内容を創意し、それを計画的に環境として構成すること
- ・保育者の特性を生かし、協力体制を生かすチーム保育により、よりきめの細かい保育を目指すこと

2. 本年度の重点項目とその設定理由

1. 幼保連携型認定こども園としての運営

- 0～5歳児までの連続性のある教育・保育の充実
- 2・3号認定児の教育・保育課程の実践と改善
- 施設・設備の整備
- 人材の確保

（設定理由）認定こども園に移行してからこれまでに確立してきた0～5歳児の連続性のある教育・保育課程を更に充実させていく。2・3号認定児の運営に関してはまだ課題点が多くある。低年齢児も安心・安全に過ごせる施設・設備の整備を更に進めるとともに、長時間保育や土曜保育にも対応する為に十分な人員の確保に努める。

2. 子育て支援事業の推進

- 様々な保育ニーズへの対応
- 未就園児活動の充実

（設定理由）各家庭の事情により、1号認定児でも長時間の保育や長期休業期間の預かりを希望する方が増えている。子育て支援の一環として、未就園児活動にも力を入れる。

3. 教育・保育の質の向上

- 教育・保育課程や環境の見直しと改善
- 教職員の資質向上（園内・外研修の充実）

（設定理由）これまでの実践を振り返りながら既存の教育・保育課程や環境を見直し、全体的な教育・保育の質を上げられるよう努める。教職員個々のレベルアップの為に、園内研修を充実させ、園外研修にも可能な限り多く参加できるようにする必要がある。

3. 重点項目の取組み状況と自己評価

重点項目		取組み状況	自己評価 (5段階)
1	0～5歳児までの連続性のある教育・保育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」と「教育課程」を指針として、0～5歳児までの連続性のある教育・保育を意識しながら実践を進めていった。日々の終礼や職員会等で情報共有はできて、0～2歳児クラスと3～5歳児クラスの保育教諭が十分に話し合う機会をつくるのが難しく、個々の職員間での引き継ぎによって育ちをつなげられるよう努力した。 ・感染症拡大防止対策が緩和され、お遊戯会は満3～5歳児混合での午前・午後の2部開催にして、保護者にも育ちの連続性を感じていただけるように実施した。 	3
	2・3号認定児の教育・保育課程の実践と改善	<ul style="list-style-type: none"> ・年々人数が増加しているすみれ組(午後からの2号認定児と1号認定児の一時預かり)では、まず午睡やおやつなどの生活面の安定を図り、その上で安全に過ごしながら各自が好きな遊びをのびのびと楽しめるように運営している。各学年の担当保育教諭が提案する遊びを通して思考力やコミュニケーション能力等の様々な力が育まれている。 ・3号認定児においても、シール貼りやパズルなどに夢中で取り組む中で、手先の巧緻性や考える力、根気強さなどが育まれている。ダンスや運動遊びも計画的に取り入れて、身体を自分の思い通りに動かす力やバランス感覚などを養えるようにしている。 	3
	施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・園児送迎用バス4台全てに、降ろし忘れ防止のための安全装置を装備。 ・北館西面外壁漏水等補修工事(サイン工事含む)を行った。 ・1歳児みかん組・2歳児りんご組の保育室に防犯カメラを増設。 ・すみれ組は18時以降西館2階で過ごす、その入口での靴の履き間違いなどが多かった為、折り畳み式のシューズラックを購入して常備し、人数が多い時にも整理できるようにした。 ・遊具の安全点検を保育用品業者に依頼し、必要な部分は補修していった。 ・第2園庭に未満児も座れるベンチを3つ設置。 ・通園バスの更新については、バス利用状況の推移等を考慮して何人乗りのものにするかを検討中。 	4
	人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から引き続き、長時間保育や常勤保育教諭の産・育休期間への対応のため、遅い時間帯に勤務できる非常勤保育教諭を募集しているが、十分な確保はできていない。学生アルバイトを多く採用し、日によっては補うことができた。 ・次年度に向けては、他園での保育経験者1名と新卒者3名を確保することができた。 	3

2	様々な保育ニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・共働き家庭の割合が更に多くなり、2号認定を希望する保護者は増加し続けている。1号認定で一時預かりを毎日利用するケースが、今年度は満3歳児クラスでも増えてきた。 ・0～2歳児クラスに空きができれば、待っている人をその都度受け入れた。次年度は0～2歳児定員を増やすことを決定した。 	3
	未就園児活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所等のどこにも所属していない未就園児を受け入れる「こども誰でも通園制度」のモデル事業が全国で展開されつつあるが、本園は人員も部屋も余裕はないため実施は見送る。 ・満3歳児クラスの定員枠を上げたことにより、毎年実施していた2歳児対象のTJ教室は希望者が無く、未実施となった。 	2
3	教育・保育課程や環境の見直しと改善	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にできなかった活動や行事を実施できるようになり、既存の教育・保育課程に沿って実践を進められた。各年齢で、子どもたちにとっても保育者にとっても無理のないカリキュラム作りを目指し、今後も活動内容などを精選していく。その時々で子どもたちの育ちに応じて環境を見直し、また新たに整えていった。 ・各保育室で登降園管理をしたり保育記録映像(画像)を残したりするためにタブレットを利用できるようにしたいが、まだ実現できていない。 	3
	教職員の資質向上(園内・外研修の充実)	<ul style="list-style-type: none"> ・各月に1～2名の保育教諭が公開保育形式の園内研修を実施。その他、アレルギー(アナフィラキシーショック)対応、熱性けいれん発症時対応についての園内研修を行い、常勤保育教諭ほぼ全員が参加した。 ・産・育休中の常勤保育教諭以外の全員(30名)が、年間を通して何らかの園外研修に参加し資質向上に努めた。 	4

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・第2園庭での遊びが充実するよう低年齢児向けの遊具を増やしていき、更に整備を進める。暑さ対策(日除けの設置)も必要。 ・通園バスの更新を早めに進めていく。 ・滑りやすく怪我が起きたこともある西館前通路の改修をする。 ・消えかかっている南駐車場のラインの引き直し。(大型車対応の枠で) ・保育教諭(未満児クラス)の休憩室の設置を検討する。
人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・国の保育士配置基準が見直されたことにより、現在の定員を満たす人数を受け入れるには増員が必要となる。出来る限り早期に新卒採用活動を開始し、優秀な人材確保に努める。 ・朝早くから夕方遅くまでの保育を希望する保護者が増加しており、そのニーズに対応していくには、人員にある程度の余裕がなければ厳しい。フリーで動ける保育教諭を数人増やし、急な欠勤や土曜保育の振替休み、産休・育休保育教諭の代替などに対応できると良い。

<p>教育・保育内容の改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭一人ひとりが日々の教育・保育をしっかりと振り返りながら、それぞれの気付きや反省を次の実践に活かしていく。それらを記録に残していき、より具体的な教育・保育課程を確立させ、更なる質の向上を図る。各活動や園行事の内容や実施方法などについても再検討し、精選していく。 ・保育者間で見合ったり話し合ったりする時間の確保が難しくなってきたはいるが、公開保育形式の園内研修はやり方を工夫しながら実施し、教育・保育内容の改善に役立てる。様々な見方による意見を多く交わし、より良い教育・保育を目指す意識を全体で高めていく。
<p>子育て支援事業の拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズに対応するために、入園希望の多い1・2歳児の受け入れ定員や3～5歳児の2号認定児の枠を増やすことは今後も検討していく。 ・「たんぼぼ」(親子参加型活動)や「TJ教室」(未就園児教室)の実施回数を可能な限り増やす。園庭開放は0歳児から希望に応じ、入園希望者の施設見学も随時受け付ける。 ・「こども誰でも通園制度」の取り組み実施を検討するが、施設・設備や人員の配置に余裕ができるまでは難しいかと思われる。
<p>地域連携の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・保・小の合同研修会等の機会に、近隣の小学校や保育所の先生方と情報交換をしたり意見を交わしたりすることで相互理解を図り、連携を深める。 ・現在は園のホームページにて、未就園児保護者に園庭開放の日程等を発信しているが、インスタグラムなどの他の方法でも発信し、園のことを知っていただく、そして園へ足を運んでいただくきっかけを多くつくれると良い。 ・コロナ禍以前に実施していた地域の高齢者との交流会等を徐々に再開していきたいが、年間を通して様々な感染症拡大の恐れがあり難しい。
<p>自己評価・自己点検</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育に関する事と園運営、両面からの適切な評価・点検を行う。PTA本部が実施する保護者アンケートの結果も園評価の一つとして参考にし、今後の改善に役立てる。その他の第三者評価の実施も検討する。 ・常勤保育教諭全員が、一年間を振り返っての自己評価表を園に提出。 ・県と市からの監査指摘事項を教職員に周知し、運営の改善に役立てる。

5. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められた。